

命とクルマ ~ 遺された親からのメッセージ ~

前田 敏章

- 1 犠牲を無にして欲しくない。「**命の尊厳**」を
- 2 危険な状況に置かれている歩行者、自転車。自ら違反行為をせず「**安全な行動**」を
・・・安全な運転をしている大多数の運転者を加害者に追いやってはならない。
- 3 引き続く「**交通戦争**」。交通事故は「**静かに進行する大虐殺**」とも呼ばれる。
 - ・年間8千人を超える死者、100万人以上の負傷者という莫大な犠牲。
2007年において生命・身体に被害を受けた犯罪の被害者数は110万8881人。このうち93.8% (104万0189人) は、道路交通の死傷。(死亡者は 8,268人 厚生統計)
 - ・世界的には、年間120万人の死者 (3200人 / 1日) 年間5000万人の負傷者。
 - ・国連とWHOは'05年、11月の第3日曜日を「**世界道路交通犠牲者の日**」と提唱。
- 4 「**加害がなければ被害はない**」。将来において決して加害者にならないためにはどうするか考え、さらに進めて「**加害者を生まない社会**」を作って欲しい。
- 5 被害の実相・・・歩行者、自転車の被害の多くは、「**通り魔殺人**」的被害。
「事故だから仕方ない」ではなく、「**被害者の視点**」から本質を
- 6 危険なクルマ (強大な殺傷力、道路には子どもお年寄りが共存) を安全に使うには
 - (1) クルマ使用に対する「社会的規制」の強化・・・運転には重大な責任を伴う
 - ・厳罰化・・・違反行為を伴う人身被害事件は「**未必の故意**」による「**交通犯罪**」
 - ・免許制度の厳格化・・・運転免許は、「卓越した技術」「豊富な知識」「頑強な安全意識」を有する自動車運転の専門家 (プロフェッショナル) だけに与えられるべき。
 - ・速度制御・・・リミッター (速度抑制装置) 設置と、生活道路での低速度走行。
「ソフトカー」(速度制御カー：安全な制限速度を外部に「表示」し、その設定速度以上の加速ができないように「制御」できる車) による、脱・スピード社会 の提案。
 - (2) 法を守るのは、被害者を生まないため。これが遵法精神。
「全ての規定は過去の犠牲の上に成り立っている。守らなければ同じ犠牲をくり返す」
 - (3) クルマの有用性に対する認識を「理性」で変える
「クルマは速く格好良く走るものではなく、ゆっくりだが、雨風しのいで、荷物も積んで、ドアからドアへ移動できる便利なもの。子どもや高齢者、病気の人に特に必要なもの」
・・・早く着こうと考えた瞬間、加害者となる危険は倍増する。
 - (4) ハンドルを握ったら、「進行方向空間距離」の「**安全確認を二重三重**」に行い、歩行者、自転車そして同乗者の安全を守りきり、絶対に加害者にならない運転を。
- 7 「**クルマ優先社会**」を問い直し、生命尊重の暮らし方と結合した「**共生の交通社会**」を
 - (1) 国の政策として被害ゼロを
 - ・スウェーデンの「**ヴィジョン・ゼロ**」政策：「スウェーデンの交通システムによって死亡したり重傷を負う人をゼロにする」と国会決議 (1997.10.)
 - ・公共交通を整備し、自動車の通行総量を減らすなど、クルマ依存社会からの脱却
 - ・歩行者優先の生活道路・・・「ボンネルフ」(生活の庭) 「ゾーン30」
スイスのチューリッヒでは住宅地や商業地区を「**出会いゾーン**」として、歩行者に進路優先権を与え、クルマの最高速度は20キロに制限されている。
 - ・歩車分離信号をスタンダード信号に・・・イギリスでは100%
 - (2) 「スロー イズ ビューティフル」: 「速度」「時間」を優先して「**運輸**」に支配された生活から人間性を取りもどすこと。モーターレーゼーションに追いつかない歪んだ消費社会からの脱却。
- 8 親にとって「**子は、かけがえのない宝**」
「銀 (しろがね) も 金 (くがね) も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも」
(山上憶良が子を思う親の気持ちを詠んだ万葉集の歌)
他人と自分の命を真に大切にしたい